

2017年10月13日

各位

株式会社 みちのく銀行

## 「とうほくのみらい応援ファンド」における出資案件の決定について ～地元産にんにくを活用した黒にんにく販売プロジェクト～

みちのく銀行（頭取 高田 邦洋）は、農林漁業の6次産業化支援強化に向けた取組みとして、2013年6月12日に東北地銀4行（当行含む）、みずほフィナンシャルグループ2社および農林漁業成長産業化支援機構（A-FIVE）と共同で「とうほくのみらい応援ファンド」を設立しております。

このたび、当ファンドの**第5号出資案件**として「株式会社エージーシー（代表 松山 法明）」に対し、3,000万円の出資を行うことを決定しましたのでお知らせいたします。

当行は引き続き、投資先となる6次産業化事業体への出資・経営支援を通じ、農林漁業の成長産業化の促進と、地域の雇用創出ならびに地域経済活性化に取り組んでまいります。

### 記

#### 1. 出資案件の概要

##### 1-1. 出資先の概要

出 資 先 名	株式会社エージーシー（代表取締役 松山 法明）	
住 所	青森県青森市大字浜館字科30番地13	
設 立 年 月	2017年9月	
出 資 者 出 資 額	株式会社松山ハーブ農園	3,000万円
	とうほくのみらい応援ファンド	3,000万円
	合 計	6,000万円
事 業 内 容	(1) 同社の出資会社である(株)松山ハーブ農園は2013年11月に設立。にんにくやハーブ、各種野菜の生産・販売の他、黒にんにくおよび関連商品やハーブの加工・販売、農家レストランを運営している。 (2) 2014年より、卸業者を介して百貨店の青果売り場等で黒にんにくの販売を開始。百貨店から高い評価を得るも、自社製造のにんにく生産量が限られているため、需要に見合った供給ができない状態であった。 (3) このため、自社農園に加え、連携生産者からの供給体制を構築し、保管庫および熟成機械の増設を行い黒にんにくを製造販売することで原材料の付加価値向上を図るべく、新たに別会社を設立した。	

### 1-2. 出資案件の特徴

- (1) 既に同社の出資会社である(株)松山ハーブ農園での販売実績があり製品の評価も高く、現状の販路を活用した事業拡大が期待できる。
- (2) 同社に原料の「にんにく」を供給する(株)松山ハーブ農園では、減農薬および可能な限り化学肥料を使わない方式を採用しており、2017年に「にんにく」でのGLOBALG.A.P.を認証取得している。GAP 認証取得により、連携農家への生産指導も可能となることから、今後連携農家とのGAP 団体認証も視野に入れ徹底した生産管理を目指すことができる。
- (3) 新規就農者の受け入れも積極的に行っており農業振興・地域貢献に資するとともに、にんにくの生産量日本一という青森ブランドの更なる確立が期待できる。

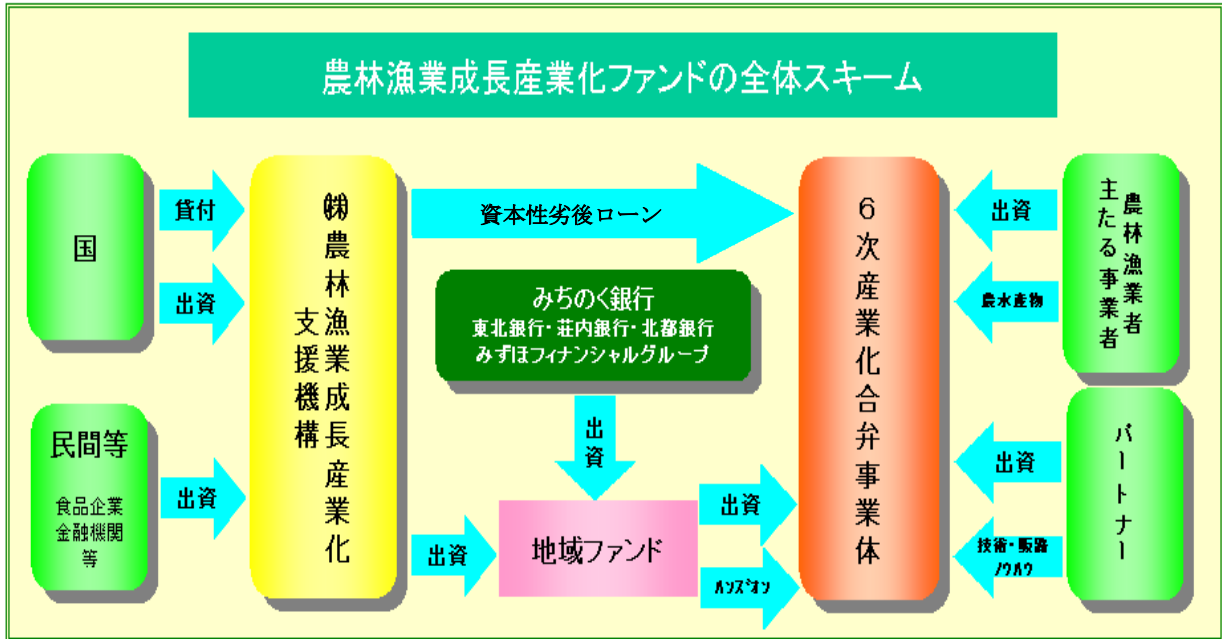
### 1-3. 出資者の概要

企業名	株式会社松山ハーブ農園
代表	松山 法明
所在地	青森県青森市大字合子沢字松森395
創業・設立年月	2013年11月
事業内容	農産物の生産・販売、農産物の加工・販売、農家レストランの運営
投資先への関与	原材料の供給

ファンド名	とうほくのみらい応援ファンド	
資金規模	20億円	
出資金内訳	<b>株式会社 みちのく銀行</b>	<b>2億円</b>
	株式会社 農林漁業成長産業化支援機構	10億円
	株式会社 荘内銀行	2億円
	株式会社 東北銀行	2億円
	株式会社 北都銀行	2億円
	株式会社 みずほ銀行	1億8千万円
	みずほキャピタル 株式会社	2千万円
設立日	2013年6月12日	
ファンド運営会社	みずほキャピタル 株式会社	
存続期間	15年	

※本ファンドは生産から加工、流通、販売までを総合的かつ有機的に結びつけるネットワーク構築をサポートし、地域産業の6次産業化推進を目的としております。

(参考1) とうほくのみらい応援ファンドのスキーム

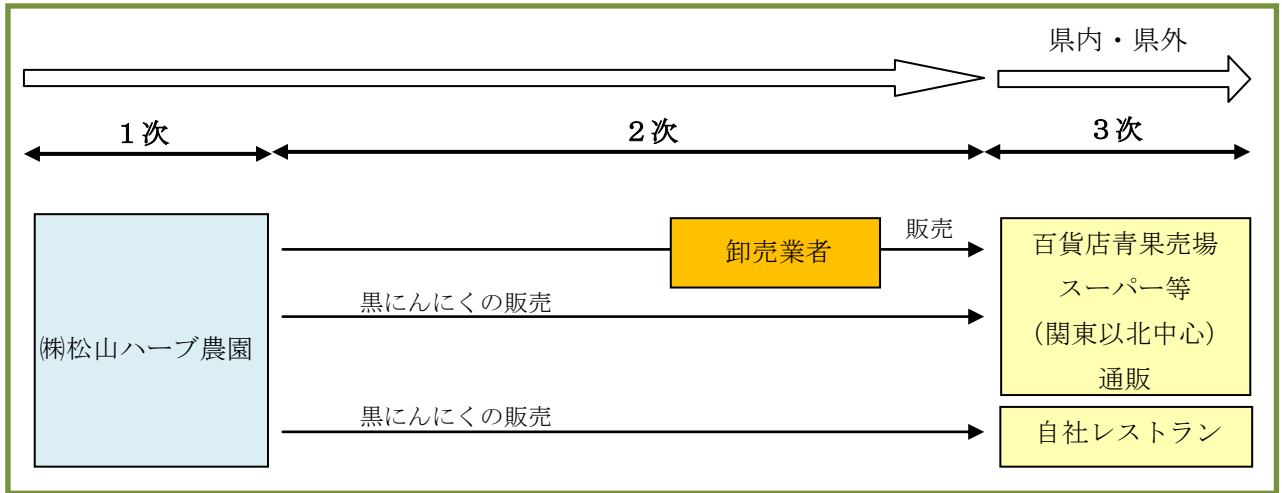


(参考2) とうほくのみらい応援ファンドの出資案件一覧

案件	出資決定時期	出資先の名称	所在地	出資額
1号	2014年 1月	(株)あおもり海山	青森県深浦町	1億円
2号	2014年 3月	(株)おおのミルク工房	岩手県洋野町	1,300万円
3号	2015年11月	(株)エヌ・ケー・エフ	宮城県名取市	1,000万円
4号	2016年 4月	久慈バイオマスエネルギー(株)	岩手県久慈市	2,500万円
5号 (本件)	2017年10月	(株)エージーシー	青森県青森市	3,000万円

(参考3) 本件のスキーム図

~現在の商流~



~今後の商流~

